

(3) 水産の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩釜、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地魚市場への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成17年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額(5,737億円)のうち、水産加工品は2,719億円と実に食料品出荷額全体の47%で、平成13年以降概ね50%を占めており、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきましたが、県内産地魚市場への水揚量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる中で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、そして国内消費の低迷などから生産量は年々減少していますが、ここ数年は横ばいの傾向になっています。

また、生産額においても、生産量の減少に加え、川下主体の価格形成を余儀なくされていることなどから減少傾向で推移しています。

本県における平成17年度の水産加工品生産量は39万トン(対前年比101.2%)生産額(水産加工品製造出荷額)では2,719億円(対前年比94.4%)となり、近年の傾向としては、生産量では前年を上回るものの、生産額は前年より低くなっています。

品目別で見ますと生産量では、ねり製品(対前年比1,473トン・1.9%減)、冷凍食品(同1,318トン・2.9%減)及び塩蔵品(同3,496トン・11.9%減)においては前年より減少しましたが、干品(素干、塩干等)(対前年比353トン・6.6%増)及び冷凍水産物(同8,221トン・4.4%増)では増加しています。

一方、生産額では、ねり製品(対前年比7億円・1.6%増)及び冷凍食品(同8億円・1.0%増)では増加したものの、冷凍水産物(対前年比117億円・28.8%減)と、その他食用加工品は前年より減少しています。

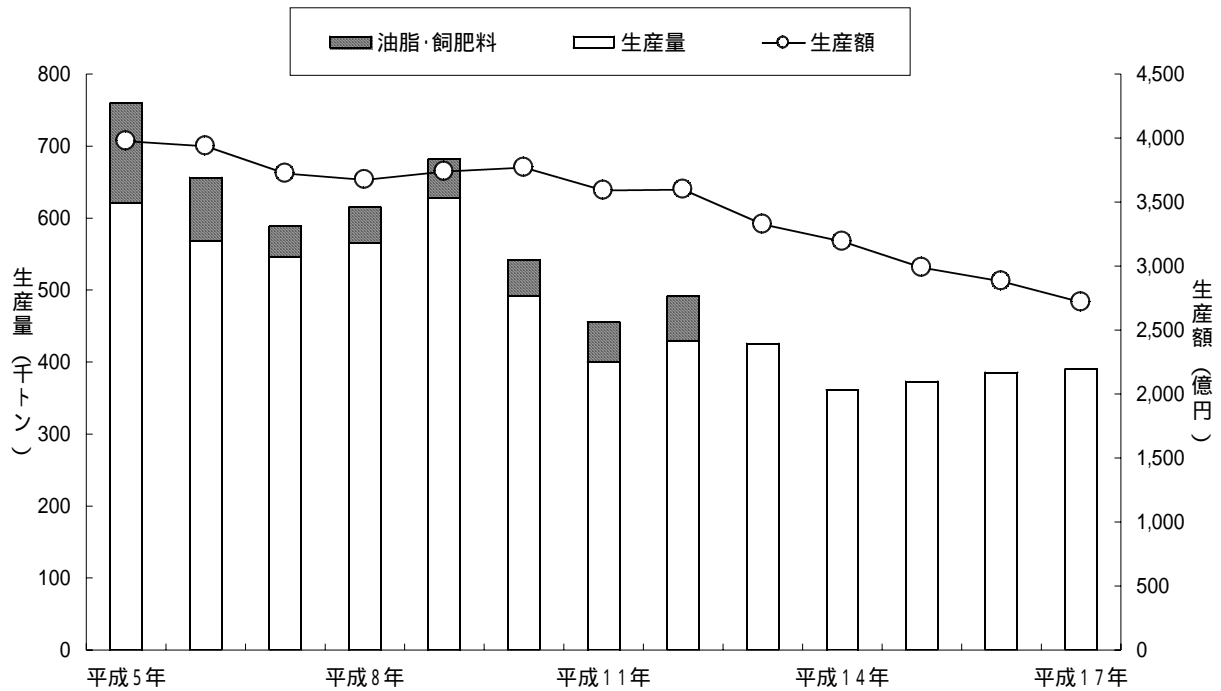
(単位：億円)

区 分	平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年	
		%		%		%		%		%
電気製品	8,686	23.7	8,497	24.7	8,908	26.0	8,729	24.8	8,254	23.1
食料品	6,559	17.9	6,362	18.5	6,164	18.0	6,035	17.2	5,737	16.1
水産加工品	3,323	9.1	3,193	9.3	2,988	8.7	2,882	8.2	2,719	7.6
その他	3,233	8.8	3,169	9.2	3,176	9.3	3,153	9.0	3,018	8.5
その他の製造品	21,343	58.3	19,504	56.8	19,228	56.1	20,372	58.0	21,711	60.8
計	36,588	100.0	34,363	100.0	34,300	100.0	35,136	100.0	35,702	100.0

資料：宮城県企画部「宮城県の工業」

(注) 平成14年に統計区分が変わったため、平成14年以降の「電気製品」は、「電子部品」、「電気機械」及び「情報通信機械」の合計値として示した。

表19 県内製造品出荷額の推移



資料：東北農政局統計部「宮城県漁業の動き」、宮城県企画部「宮城県の工業」
 (注) 平成13年度から「油脂」、「飼肥料」の調査が中止されている。

図19 水産加工生産量及び生産額の推移

(生産量：トン，生産額：百万円)

区分		平成14年	平成15年	平成16年	平成17年				
					県計	石巻市	塩釜市	気仙沼市	女川町
生産量	練り製品	78,674	77,095	76,426	74,953	10,766	43,708	95	4,356
	冷凍食品	43,535	42,085	46,239	44,921	15,270	8,752	11,980	2,534
	干品(素干,塩干,煮干,くん製及び節製品)	6,650	6,256	5,307	5,659	1,846	1,416	1,087	1,039
	塩蔵品	33,879	31,459	29,289	25,793	9,399	9,990	1,247	3,538
	その他の食品加工品	42,669	37,728	42,704	44,891	11,361	10,259	19,046	156
	生鮮冷凍水産物	155,806	178,414	185,621	193,842	93,282	15,696	45,952	27,909
	計	361,213	373,037	385,586	390,059	141,924	89,821	79,407	39,532
生産額	練り製品	50,596	49,484	45,248	45,959	X	21,269	124	X
	冷凍食品	104,632	90,361	79,037	79,839	25,585	14,209	X	24,740
	その他の食用加工品	121,361	117,258	122,963	116,977	X	X	X	X
	冷凍水産物	42,715	41,695	40,895	29,109	8,376	X	7,136	7,033
	計	319,304	298,798	288,143	271,884	X	X	X	X
	経営体数	537	519	500	478	136	121	89	35

資料) 生産量：東北農政局統計部「宮城県漁業の動き」、生産額：宮城県企画部「宮城県の工業」(基礎資料)
 X：未公表

(注) 生産量については、平成13年から「調査対象を加工場又は加工施設があり、専従の従業員のいる経営体」としたほか、「油脂」、「飼肥料」、「寒天」及び「冷凍水産物」のうち「冷凍海産ほ乳類」、「塩蔵品」、「その他の加工品」の調査が中止され、加工種類及び調査品目についても追加・統廃合されている。

表20 宮城県における水産加工品の生産状況

□ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩釜及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地などの消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。

しかしながら、沖合漁業の対象種である主にいわしを中心とした多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低位水準にあることなどから、長期的に見ると、本県産地魚市場における水揚量は減少傾向にあります。近年は、35万トン前後で推移しています。

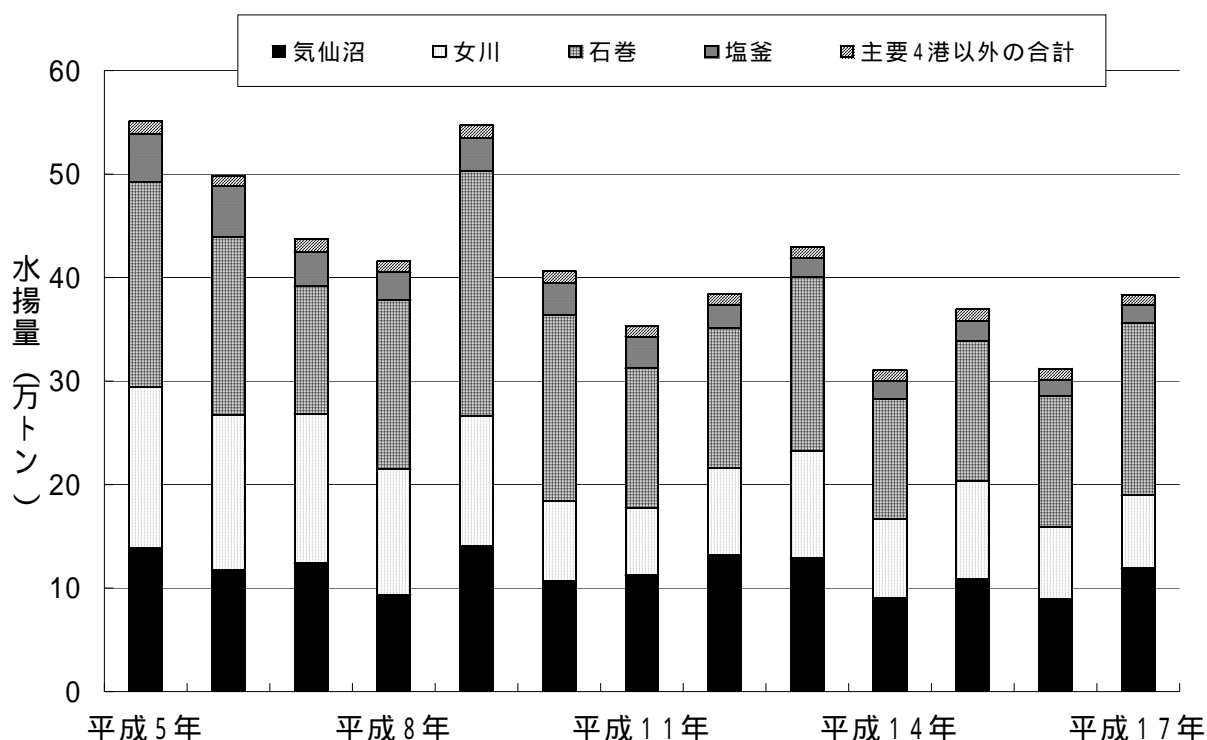
また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成17年の本県産地魚市場における水揚量は、38万3千トンと前年と比較し7万1千トン・22.8%増加しました。金額は599億9千万円で、逆に12億5千万円・2.1%減少しています。

魚市場別に見ると、数量では渡波、志津川、閑上の3魚市場を除き、気仙沼魚市場（対前年比2万9千トン・32.6%増）を始めとして各魚市場とも数%～30%程度増加していますが、金額では、気仙沼魚市場（対前年比12億3千万円・6.0%増）では増加しているものの、気仙沼を除く主要市場では塩釜魚市場（同10億9千万円・9.7%減）、石巻魚市場（同7億2千万円・5.7%減）、女川魚市場（同9億9千万円・14.2%減）と大きく減少しています。

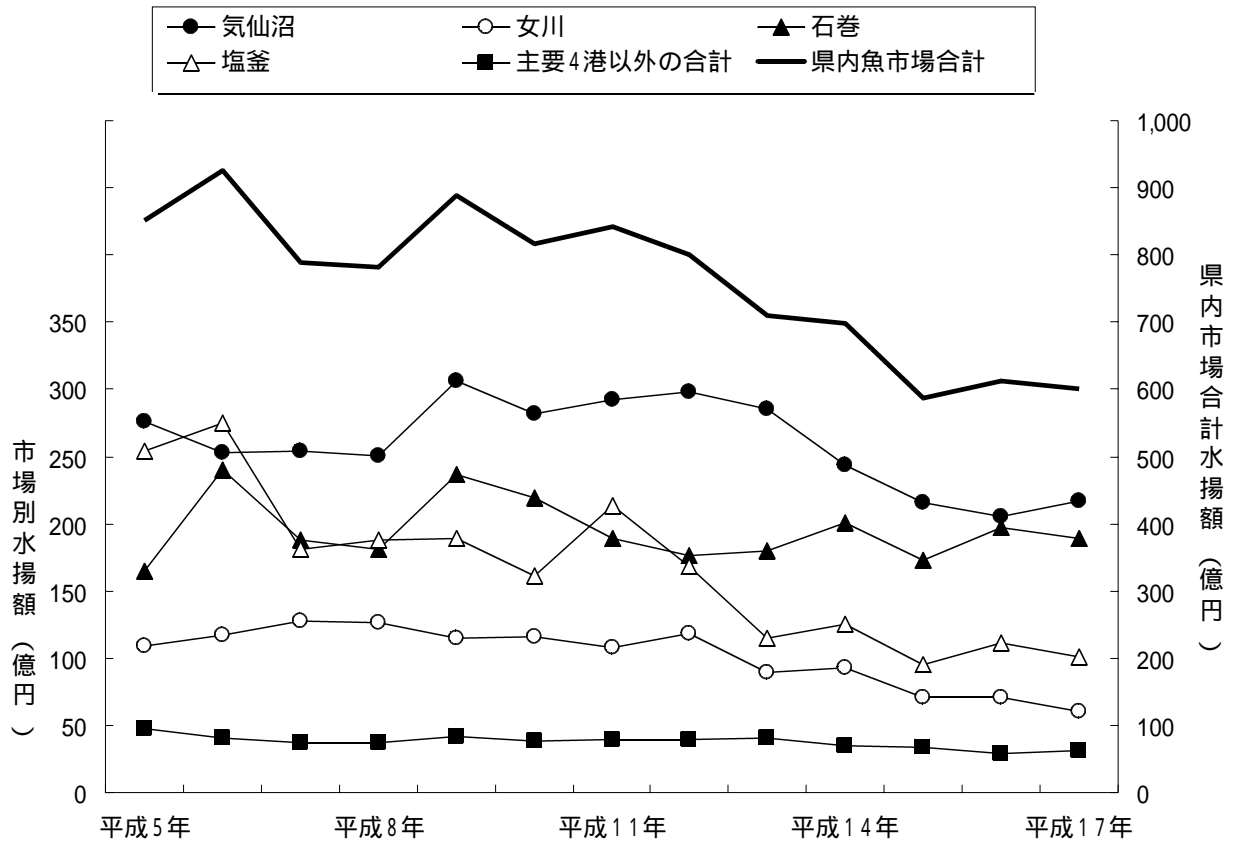
魚種別に見ると、水揚げ数量増加の要因としては、かつお、さば類、さんまの増加があげられます。

逆に水揚げ金額の減少については、さば類、さんまの価格低迷が大きく影響を及ぼしています。



資料：宮城県産業経済部「水産物水揚げ統計（属地統計）」

図20 県内産地魚市場の水揚げ量の推移



資料：宮城県産業経済部「水産物水揚統計（属地統計）」

図2-1 主な産地魚市場の水揚額の推移

（水揚量：トン，水揚額：千円）

魚市場名	水揚量				水揚額			
		対前年比	県内船	県外船		対前年比	県内船	県外船
地方卸売市場塩釜市魚市場	17,653	111.5	7,073	10,580	10,087,262	90.3	2,897,672	7,189,591
地方卸売市場気仙沼市魚市場	119,162	132.6	37,917	81,245	21,712,108	106.0	8,841,464	12,870,644
石巻市水産物地方卸売市場	166,054	130.9	87,924	78,130	18,965,799	96.3	11,680,073	7,285,735
渡波地方卸売市場	121	76.6	121	0	58,932	81.8	58,490	443
女川町地方卸売市場	70,668	102.3	42,219	28,449	6,024,733	85.8	3,857,754	2,166,979
志津川町地方卸売市場	8,051	91.6	7,623	427	1,407,418	108.1	1,308,144	99,274
関上地方卸売市場	245 (10,805)	80.6	245	0	200,953	103.0	200,953	0
地方卸売市場 亘理町漁業協同組合魚市場	582 (27,960)	106.6	582	0	559,044	111.2	559,044	0
牡鹿町地方卸売市場	544	128.9	544	0	287,315	177.7	287,315	0
地方卸売市場七ヶ浜町漁業 協同組合花洲浜魚市場	310 (41,858)	112.3	310	0	675,308	105.7	675,308	0
合計	383,390 (80,623)	122.8	184,558	198,831	59,987,873	98.0	30,253,380	29,612,666

資料：宮城県産業経済部「水産物水揚統計（属地統計）」

（注）水揚量の下段にある（ ）内の数値は、「養殖のり」の水揚量（枚数：千枚）を示す。

表2-1 各産地魚市場の水揚（平成17年）

コラム

M・Kプロジェクト始動 ～第1弾は「みやぎの牡蠣」～

1 「M・Kプロジェクト」とは？

県と麒麟ビール株式会社とが協働し、お互いの得意分野を相互活用して宮城県産のこだわりの食材を県内や全国に広くPRしていくプロジェクトのことで、MIYAGIの「M」とKIRINの「K」の頭文字をとって「M・Kプロジェクト」と呼んでいます。

このプロジェクトでは、「みやぎの牡蠣」を使った「麒麟一番搾り生ビール」の全国CM放映を機に、豊かな食材に恵まれた宮城県の特性を活かし、麒麟ビール株式会社の地産地消の取組と連携して、宮城県内の地産地消の推進と、全国へ「食材王国みやぎ」のすばらしさをご紹介します。



平成18年8月23日「M・Kプロジェクト」記者発表

2 キリンビールCM「宮城の牡蠣」編の放映

旬の食と「麒麟一番搾り生ビール」のおいしい組合せを紹介しているテレビCMシリーズの第43弾として、俳優の佐藤浩市さんが宮城の牡蠣と「麒麟一番搾り」を味わう「みやぎの牡蠣」篇が、平成18年11月上旬から12月下旬までの2ヶ月間全国で放映されました。

3 「みやぎの牡蠣と一番搾りを楽しむ夕べ」の開催

11月6日にマスコミを招いてCM放映開始を記念するキックオフパーティーが県庁18階の「ごっつお18番」で開催され、「みやぎの牡蠣」づくしの料理が振る舞われました。



4 みやぎふるさとプラザ「コ・コ・みやぎ」でのPR販売

CM放映直後、11月6日から12日まで、池袋にある本県のアンテナショップで、JFみやぎ漁連による「みやぎの牡蠣」の販売会が開催されました。

11日、12日には麒麟ビール商品が当たる抽選会も行われました。



(食産業・商業振興課)

産地魚市場を中心とした水産物産地流通拠点の整備

気仙沼・石巻・塩釜・女川の各魚市場は、全国有数の水揚げ量を有し県内はもとより全国に新鮮な魚介類を出荷しています。漁港背後地を中心に地域内には冷凍・冷蔵、水産加工、製氷・貯氷などの様々な水産関係施設が集積し、水産物の産地流通拠点としての機能を果たしています。

同時に、燃料・食料等の供給、包装資材関係、運輸関係など関連業種も含めて地域経済の中心としての役割を担っています。

県では水産物の安定供給や産地流通機能の高度化等を図る観点から、国と連携しこれら地域における産地流通拠点としての整備を支援しています。

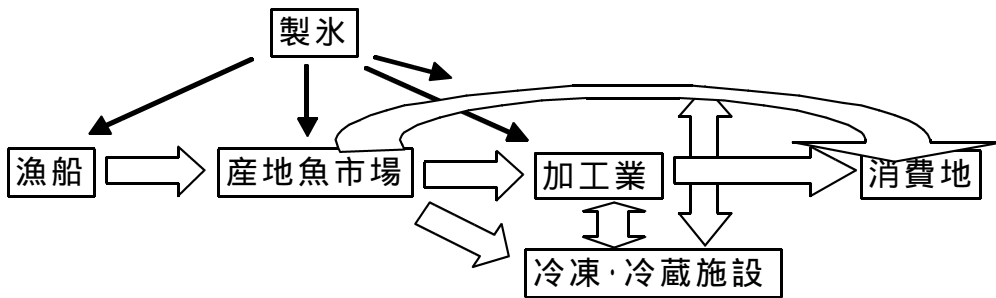


図1 宮城県内の産地魚市場を中心とした水産物等の主な流れ

産地流通加工拠点整備関連事業一覧（水産庁補助事業関係分）

事業費：百万円

年度	施設名	事業主体	総事業費
H元	残さい処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	132
H2	廃棄物処理施設	(社)石巻市水産加工排水処理公社	146
H6	冷凍・冷蔵施設	渡波水産加工業協同組合	174
H7	冷凍・冷蔵施設	気仙沼漁業協同組合	362
H8	冷蔵施設	石巻市	1,863
H8	水産加工公開実験棟	宮城県	229
H9	廃棄物処理施設	石巻魚類協同組合	15
H15	冷蔵施設	気仙沼水産加工業協同組合	226
H16	排水・廃棄物処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	474
H17	冷蔵施設	気仙沼冷凍水産加工業協同組合	309
H17	海水浄化施設	石巻市	123
H18	水産物荷捌き施設	気仙沼市	696

(漁業振興課)